

審査の結果の要旨

論文提出者氏名 郭 在 源

本論文は、日本と韓国の新素材分野における産業・科学技術政策の国際技術協力のモデルについて述べたものである。周辺諸国と協調する必要性の増大や、国際的受容性が重要となってきたこと、本論文において述べられているモデルのもたらす波及効果は、日本のみではなく、アジア諸国および欧米など、全世界的に強く影響を及ぼすと考えられる。本論文で述べているような新素材分野における日・韓両国のネットワークにより国際的受容性を高くするような国際技術協力のモデルは、世界的な拡大再生産体制の構築に大きく貢献できると思われる。日本の技術と産業協力によって韓国の浦項総合製鉄が発展してきた過程は、新素材技術の日・韓間の国際技術協力が発展するモデルとして、今後も活用される可能性が高いと著者は判断している。すなわち、日本の技術を導入して活用するレベルだけでなく、これを新素材分野における共同研究に拡大して行きながら、さらに国際的な共同研究の推進モデルとして発展させて行くことが、東北アジア地域の新素材技術協力のためのひとつの理想的なモデルと考えられ、今後の国際協力のありかたにも示唆するところが大きいと結論している。全6章からなる。

第1章では、論文の概要として、日本と韓国の新素材産業の発展過程を分析すると共に、両国における新素材分野の国際化の推進の内容と計画を調査することにより国際的受容性を点検し、日・韓両国間の国際協力模索のための様々な方案の分析を通じて、お互いの協力・発展のための重要な点について研究する方法、あるいは予想効果などを示している。

第2章では、国際技術協力のための技術革新体制及びネットワークに関する理論と技術融合、そして研究開発活動の国際化に対する理論を検討することにより、日・韓両国における新素材分野の技術協力の拡大と共同研究の推進概念について考えている。

第3章では、韓国の新素材分野、特に鉄鋼産業の技術発展と国内技術協力及び国際的な技術協力方案に対して、細部的な分析を行うことにより、日・韓両国の望ましい技術協力方向、韓国の新素材分野における新しい国際技術協力モデルについて整理している。

第4章では、国際的な新素材技術の発展と変化しつつある国際化の方向について、日・米・欧などの今までの政策推進動向を調査することにより、新素材分野の国際技術協力とその発展方向について分析している。

第5章では、日本と韓国の素材技術協力方向に対する基本的な提案を、韓国の立場と日本を中心にした協力方向とに分けて、望ましい協力方案を提示している。日・韓間の新素材技術協力の方向について、韓国の新素材技術協力における基本構図をそのまま維持しながら、日本を中心にして協力して行く方向、第三国家との協力を日本と共同で推進する方向、さらに新国際秩序を基にした実質的な技術協力の方向などに分けてその予想効果を分析している。

第6章は総括である。日本が中心になって韓国の鉄鋼産業を発展させてきたことと同様に、新素材分野においても日本を中心にした技術発展システムが構築されることにより、まず日本と韓国の新素材技術の発展、お互いの協カムードの拡散を通じてその他の

分野においても技術共同開発が増大されて産業発展へつながることが期待できることを述べている。さらにこれが基盤となりアジアは勿論、世界の技術協力の拡大の母胎に成る可能性が大きいという点から、日本を技術協力の中心に置くプリズム・モデルを提案しており、またその有用性についての分析を行っている。

以上本論文では、日・韓間の新素材共同研究推進をひとつのネットワーク型モデルとして捕らえ、地域間ネットワーク構築、すなわち日本を中心に国際的協力を行い日・韓両国の共同利益の創出を図っていくモデルを考えている。さらにこれは、日本と韓国の協力を初めとして、北朝鮮、ロシア、東南アジア諸国を含めた国際共同研究推進のモデルに拡大・発展することが可能であり、すべてのアジア地域を緊密に繋げるネットワーク型モデルとして完成できることを提示しており、新たな国際協力の提案のあり方として意義があると考えられる。さらにこのモデルはアジアは勿論、世界の技術協力の拡大の母胎になる可能性が大きいという点で評価できるとともに、そのための様々な分析を新たに試みたことにも本研究の意義があると考えられ、またこのような方向での今後の持続的な研究が期待される。

よって、本論文は博士(工学)の学位請求論文として合格と認められる。